

よつくら通信

文責；いわき市立四倉小学校長 小川幸一

休日を有効に過ごす

早いものでもう2月が終わろうとしています。子どもたちが学校へ登校することも、今日を含めあと18日となりました。各学級では1年間のまとめの学習や、修・卒業式に向けての練習や各種準備が始まっています。また、4年生や5年生は、来年の運動会に向け、6年生の指導を受けながら鼓笛の練習に励んでいます。3月には、鼓笛引継ぎ式が行われます。

ところで、いわき市では平成26年度より「土曜学習」事業が行われ、市内の20校が地区の公民館と連携して活動をしています。本校は28年度より実践校として活動しています。この事業は、ゆとり教育の名目の元、週5日制となってから十数年経過した現在、土、日を目的を持って有効に活用するという意識が徐々に薄れてきたことや学力をさらに高めるといった目的を背景に、公民館が主体となって行われています。確かに5日制導入当時は、各種スポーツ少年団や部活動などが盛んであり、土、日の方が忙しいという家庭も多くありました。しかし、児童数の減少とともに年々スポーツや部活動へ参加する者が少なくなり、家の中で遊ぶという状況が増えてきました。休日の家庭学習時間が伸びたわけでもありません。休日を有効に過ごすとともに、自ら課題を持ち、調べ、解決し、よりよく生きる力を育てようという趣旨で土曜学習が行われています。今年、本校では10回の活動で、延べ620名の児童の参加がありました。この運営のために、保護者の方々も38名が保護者ボランティアとして運営を手伝ってくださり、子ども達の活動を見守ってくださっています。

過日、土曜学習実践校が集い、今年度の児童や保護者のアンケートを元に反省をしました。土曜学習に大変満足している児童が76%、保護者は60%を占め、満足しているを含めると両者ともに約90%になります。意見としても、「もっと回数を増やしてほしい」とか「もっといろいろなことをしたい」などといった前向きな声が多い反面、「やることが同じなので変えてほしい」という考えさせられる声もありました。本校でも同じようなご意見がありました。来年度も本校は実践校として参加します。地域の行事とタイアップしている活動もあり、同じ内容の活動もいくつかありますが、今年度とは違った活動が計画されています。来年度も、たくさんの子どもの参加を願っています。

休日を有意義に過ごすということでは、土曜学習に限ったことではありません。家庭学習はもちろん、家庭読書、学校から案内される各種コンクールの作品制作、親子で外出した時の社会学習、各種団体の活動への参加等が考えられます。ゲームをして過ごす、動画を見て過ごすだけでは「おもしろかった」で終わりです。これらが悪いわけではないのですが、そこから「〇〇をしたい」という「〇〇をしよう」という新たな活動意欲を持つことが大切です。アクティブな休日を願います。



～ 3月の行事予定 ～			
2日(金)	卒業おめでとう会	16日(金)	幼稚園卒園式
6日(火)	集金日(低)	20日(火)	卒業式予行
7日(水)	集金日(中) 登校班話合い	21日(水)	春分の日
8日(木)	集金日(高)	23日(金)	修・卒業式
	P T A一人一役読み聞かせ	26日(月)	中学校オリエンテーション
13日(火)	中学校卒業式	28日(水)	教室移動(5年生)
15日(木)	P T A 常任委員会	30日(金)	離任式
<心の相談員来校日> 5・9・12・14・19日		<学校司書来校日> 1・8・9・15・16日	

家庭学習の充実のために 「ふくしまの『家庭学習スタンダード』」

1月に福島県より発行されました「ふくしまの『家庭学習スタンダード』(保存版)」を全ご家庭に配布いたしました。

これは、これからのますます発展、進化する社会の中で自ら学び、問題を解決し、社会に適応していくための「生きる力」をはぐくむための自己マネジメント力を伸ばす目的から、家庭学習のあり方を理解していただき、各ご家庭で実践していただくために作られたものです。

自分を知る→計画する→自ら学習する→確かめる→見直す

この一連のサイクルに沿って学習に当たることにより、子ども達は常に新たな目標に向かって学び続け、自己の能力を自らの力で伸ばしていくことができるというものです。そのための家庭での関わり方や学校の役割が示されています。

家庭学習を充実させるための家庭・地域の3つの視点として、①心の支え ②環境づくり ③習慣づくり が示されています。

また、家庭学習を充実させるためのチェックポイントも掲載されています。

再配布はされませんので、どうぞ大切に保管いただき、各ご家庭でお役立てください。



3月11日四倉町復興支援イベントに参加を

2011年3月11日午後2時46分、東日本大震災が起こり、四倉町も津波と地震による被害を受けました。原子力発電所の爆発事故で、避難を余儀なくされた地域もありました。あれから7年の月日が経とうとしています。

3月11日(日)には、「チャイルドハウスふくまる」において復興支援イベントが開催されます。その中のひとつに、600株の花の苗を植栽する催しがあるとのこと。四倉町の未来を担う子ども達の参加協力依頼もきています。震災の記憶を絶やさず、力強く更なる復興に向かうために、ぜひお子さんと一緒に植栽活動にご参加いただければ幸いです。時間は午後1時からです。

四倉町青少年健全育成協議会意見発表会より

1月に「四倉町青少年健全育成協議会意見発表会」が開かれ、6年生の柳望愛さんがインドネシアの小学校との交流を通して、日本とは全く文化や生活の仕方が違っていること、違いはあっても考え方や感じ方は同じであること、戦争のない平和な世の中にするためにはもっといろいろな国の人たちのことについて知り互いを認める必要性を発表し会場を鎮かせていました。

大浦小の児童は地域の伝統を守るという内容で、地域の一員として積極的に地域の人に挨拶をするという決意を表していました。実際大浦小学区を歩いていると小・中学生に元気に挨拶され、気持ちのよいものです。